

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	工業倫理	
科目基礎情報							
科目番号		0139		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		機械工学科		対象学年		4	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		教科書：はじめての工学倫理（第3版）、斉藤了文他・坂下浩司、昭和堂 参考書：技術者の倫理入門、杉本泰治・高城重厚、丸善 技術者倫理の世界、藤本温編著、森北出版					
担当教員		松永 崇					
到達目標							
1. 倫理の基本的な知識を身につける。 2. 技術が社会に及ぼす影響・効果を考えることができる。 3. 技術者としての社会に対する責任を理解し、自覚できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		倫理の基本的な知識を身に付けることができる。		倫理の基本的な知識をある程度身に付けることができる。		倫理の基本的な知識を身に付けることができない。	
評価項目2		技術が社会に及ぼす影響・効果を考えることができる。		技術が社会に及ぼす影響・効果を考えることができる。		技術が社会に及ぼす影響・効果を考えることができない。	
評価項目3		技術者としての社会に対する責任を理解し、自覚できる。		技術者としての社会に対する責任を理解し、自覚することができる程度できる。		技術者としての社会に対する責任を理解し、自覚できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		科学技術の目覚ましい発展に伴い、技術が社会や地球環境に大きな影響を及ぼすようになっている。近年特に、技術者の倫理に関わる事件や事故が数多く起こっていることから、技術者倫理の確立が求められている。このようなことから、技術者の倫理規範や社会的責任の重要性を理解し、技術者として社会や環境に対して倫理的に正しく行動し、その責任を果たしていくために必要な基礎知識と実践的な手法を取得する。					
授業の進め方・方法		教科書と配布プリントに沿って内容の要点を板書し説明することによって、技術者倫理の概念や基礎知識を学習する。その際に、具体的な事例もマルチメディアを用いて紹介する。事例研究やグループ討議を通して、実社会における複雑な問題を疑似体験することにより問題解決の手法の習得と解決能力の向上を図る。また、適宜、課題をレポートにして提出させる。					
注意点							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	技術者倫理とは、「技術者倫理学習のスキル」について：講義とビデオ学習				
		2週	倫理用語の概念と理論			：講義	
		3週	技術、倫理、技術者倫理の定義			：講義	
		4週	技術/技術者倫理の必要性			：講義	
		5週	技術者の倫理綱領			：講義	
		6週	ケーススタディ（チャレンジャー号事故）：事例研究と討論				
		7週	倫理と法、パターンリズム			：講義	
		8週	安全性と「受け入れ可能リスク」、製造物責任法（PL法）：講義				
	2ndQ	9週	ケーススタディ（フォード・ピント事件）：事例研究と討論				
		10週	倫理学の三理論			：講義	
		11週	倫理的な意思決定のための方法および意思決定を妨げる要因と促進要因：講義				
		12週	「技術者の自律」ビデオ学習			：事例研究と発表	
		13週	技術者の知的財産権、解決方法の最終手段である公益通報制度の現状と課題			：講義	
		14週	ケーススタディ（ギルベイン・ゴールド）：事例研究と発表				
		15週	ケーススタディ（ソーラーブラインドなど選択課題）：事例研究と発表				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。		2	前3,前4,前5
				説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。		2	前6
				技術者を目指す者として、社会での行動規範としての技術者倫理を理解し、問題への適切な対応力（どのように問題を捉え、考え、行動するか）を身に付けて、課題解決のプロセスを実践できる。		3	前6
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。		3	前12

				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前12
				社会性、社会的責任、コンプライアンスが強く求められている時代の変化の中で、技術者として信用失墜の禁止と公益の確保が考慮することができる。	3	前8,前9,前13
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	前8,前9
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	前8,前9

評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	40	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0